

様式 2

番号 観 点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	11・学図	第 1 学年 第 2 学年 第 3 学年	道徳 722 道徳 822 道徳 922	輝け 未来 中学校道徳 1 年 輝け 未来 中学校道徳 2 年 輝け 未来 中学校道徳 3 年
取 扱 内 容 〔学習指導要領の総則及び目標、内容等〕	<p>○ 生命の尊厳について 第 1 学年では、命についてどのようなことを感じているか、「かけがえのない命」という言葉からどのようなことを連想するかを考える活動等、第 2 学年では、命を輝かせて生きるためにどのようなことを大切にしたいか、家族や友達、周囲の人たちの命についてどのようなことを感じるかを考える活動等、第 3 学年では、生きることの大切さとはどのようなものか、生命のかけがえのなさや尊さをどのように感じるかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 自然について 第 1 学年では、自分が大切に思う自然の姿にはどのようなものがあるかを考える活動等、第 2 学年では、身の回りの自然に対してどのようなことを忘れずに思い続けていきたいかを考える活動等、第 3 学年では、自然に対してどのような関わり方をしていくかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 伝統と文化について 第 1 学年では、郷土の伝統や文化を大切にするためにすべきことはどのようなことかを考える活動等、第 2 学年では、自分が将来に向けて残していきたいと思う郷土の文化や産業にはどのようなものがあるかを考える活動、第 3 学年では、郷土のどのようなことにどのような思いをもって関わっていきたいかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</p> <p>○ 情報化への対応について 第 1 学年では、ブログを扱い、「個人の自由」と思えることであってもどのようなことを考えて判断するとよいかを話し合う活動等、第 2 学年では、インターネットを扱い、相手や自分に誠実であるためにインターネット上のやりとりでどのような心構えが必要かを話し合う活動等、第 3 学年では、インターネットを扱い、匿名での書き込みをする際どのようなことに気を付けるとよいかを話し合う活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっている。</p>			
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<p>○ 内容の構成・排列 言語活動については、様々な見方や考え方を出し合ったり話し合ったりする「学びに向かうために」を配置し、問題解決的な学習については、道徳的問題について考えを出し合う教材を配置し、体験的な学習については、役割演技による学習を用いた教材を配置するなど、生徒が多面的・多角的に思考できるよう工夫されている。</p> <p>○ 内容の分量※ 第 1 学年～A は 7 教材、B は 6 教材、C は 16 教材、D は 6 教材、E は 8 教材、全体で 43 教材であり、総ページ数は 224 ページとなっている。 第 2 学年～A は 7 教材、B は 6 教材、C は 16 教材、D は 6 教材、E は 8 教材、全体で 43 教材であり、総ページ数は 228 ページとなっている。 第 3 学年～A は 7 教材、B は 6 教材、C は 16 教材、D は 6 教材、E は 8 教材、全体で 43 教材であり、総ページ数は 224 ページとなっている。</p>			
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○ 各学年に、「一年間の振り返り」や教材ごとの「学びの記録」を配置し、自らの道徳的成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようにするなど生徒が自らを振り返るための工夫がなされている。</p> <p>○ 各学年に、家庭教育との連携を図ることを目的とした「保護者の方へ」や「さあ、楽しい夏休み！」を配置し、家庭や地域との連携を深めるための工夫がされている。</p> <p>○ 道徳の学習の進め方を示すページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインなどを採用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			
そ の 他	<p>○ 北海道と関連のある教材は、「北限の稲作に挑む」など 3 箇所取り上げられている。</p> <p>○ いじめ問題については、本当の友情を育むためにはどのようなことを大切にしていきたいかを考える活動等を取り上げている。</p>			

※ 「内容の構成・排列、分量等」の「内容の分量」の A は「主として自分自身に関すること」、B は「主として人との関わりに関すること」、C は「主として集団や社会との関わりに関すること」、D は「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、E は「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。